



## 【第336号 紙面案内】

第1面…学会会長に就任して  
第2面…理事会・常任理事会 議事録  
第3面…年次総会報告  
第4面…学会役員・名誉会員一覧  
第6面…第89回全国研究大会 大会開催記

第9面…第90回全国研究大会 統一論題解題・案内  
第10面…部会案内  
第12面…「韓国経営教育学会」参加記  
第13面…部会報告・新刊紹介  
第18面…事務局より

## 学会会長に就任して

日本マネジメント学会 会長 井上 善海 (法政大学)

日本マネジメント学会第89回全国研究大会 (2024 (令和6) 年6月7日(金)～9日(日)、明治大学) で開催された理事会において会長を拝命いたしました。これから3年間、学会の運営・活動に責任をもって取り組んでいく所存ですので、会員の皆様のご協力よろしくお願ひ申し上げます。

日本マネジメント学会は、1979 (昭和54) 年12月に山城章先生を中心に設立され、本年で45年目を迎えます。これまで、『実・学一体の実践経営学』という理念に基づき、産学交流や国際交流等を通じて実践経営学の確立と有能な人材育成のための活動を展開し、大きな成果を上げてきました。

その歴史と伝統を引き継ぎながらも、コロナ禍を経て加速し始めた「第四次産業革命」の流れに学会としても対応していかなければなりません。このため、学会運営や活動のDX化を推進するための特別委員会を今回新たに設置しました。また、企業経営が、量を追う経営から質を高める経営へと転換してきているように、学会も量を追うだけでなく、質の高いサービスを会員へ提供する活動へと転換していく必要があります。そこで、部会の活性化を図るための特別委員会を新たに設置しました。この二つの特別委員会により、会員サービスの向上と学会運営・活動の効率化を図って参ります。

さらに、部会活動だけでなく、全国研究大会や機関誌への投稿など、会員が学会活動へ参加することで得られるメリットをより高めるための様々な方策を講じていきたいと思っております。会員の皆様からも、魅力ある学会にするためのアイデアなどがございましたら、ぜひ会長まで直接ご提案をお願いいたします。

学会も世代交代の時期に来ております。次世代の方々に良い状態でバトンタッチできるよう取り組んで参りますので、ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

## ◇◇理事会・常任理事会 議事録◇◇

1. 日 時：2024(令和6)年6月1日(土) 16:00～16:55

2. 会 場：(オンライン)

3. 議 題：

(1) 第89回全国研究大会プログラムについて

第89回全国研究大会実行委員長より、6月7日(金)から9日(日)にかけて明治大学で開催される第89回全国研究大会に関して、プログラムの説明がなされ、承認された。

(2) 令和6年度年次総会について

会長より、年次総会の開催案内について説明がなされた。

(3) 理事選挙について

会長より、理事選挙および選挙管理委員についての説明がなされた。

(4) 令和5年度活動報告及び収支決算について

組織委員長より、令和5年度活動報告が報告され、承認された。

総務委員長より、令和5年度収支決算が報告され、令和5年度の監査が適正であることが承認された。

(5) 令和6年度活動計画及び収支予算について

組織委員長より、令和6年度活動計画について説明が行われ、承認された。

総務委員長より、令和6年度収支予算についての説明が行われ、承認された。

(6) 第90回全国研究大会について

組織委員長、第90回全国研究大会実行委員長より、10月4日(金)～6日(日)に九州産業大学で開催予定の第90回全国研究大会のプログラムについて説明がなされた。

(7) 各委員会・地方部会・研究部会からの報告について

国際委員長より、5月に開かれた韓国の慶北大学に表敬訪問したことが報告された。

(8) その他

会長より、会長職の再任(重任)について次の執行部のもと検討してもらいたいことが説明された。

会長より、学会のDX化の現状と課題について説明がなされた。

以上

## ◇◇令和6年度 年次総会報告◇◇

1. 期 日：2024(令和6)年6月8日(土)
2. 時 間：16:00～16:55
3. 会 場：明治大学
4. 議 題：

## (1) 令和5年度の活動報告及び収支決算の件

第87回全国研究大会(文教大学)、第88回全国研究大会(駒澤大学)、国際委員会、北海道・東北部会、関東部会、関西・四国部会、中国・九州部会、各研究部会、会報や機関誌の発行などの諸報告がなされた。学会のDX推進に伴い、会報についてはオンライン化したこと、機関誌については年1回になったことに加え、事務所の移転に関して報告された。続いて収支決算報告及び監査報告がなされた。これらの報告内容はすべて承認された。

## (2) 令和6年度活動計画及び収支予算の件

第89回全国研究大会(明治大学)、第90回全国研究大会(九州産業大学)、各地方部会、各研究部会、国際委員会、学会のよりDX化の促進(ホームページの拡充)、会報、機関誌、産学交流シンポジウムなどについて説明があり、続いて収支予算が示され、承認された。

## (3) 理事選挙の件

総会に先立ち、選挙幹事のもと、理事選挙が行われた。

## (4) その他

木下耕二氏(九州産業大学)『ダイナミック・ケイパビリティのフレームワーク—資源ベース再構成の組織能力—』(中央経済新聞社, 2023年3月31日発行)に対し、山城賞の受賞が行われた。

機関誌の電子化(J-Stageへの登録等)について質問がなされた。

学会員の増強に関して質問がなされた。

以上

## 日本マネジメント学会役員・名誉会員一覧

(任期：自2024(令和6)年7月1日 至2027(令和8)年6月30日)

2024年7月1日現在

※敬称略・五十音順

会 長	井上 善海			
副会長	辻村 宏和	吉村 孝司		
顧問	逸見 純昌	梅澤 正	菊池 敏夫	斎藤 毅憲
	酒井 勝男	櫻井 克彦	筒井 清子	西澤 脩
理事	東 俊之	粟屋 仁美*	石毛 昭範	稲葉 健太郎
	井上 善海*	大野 和巳*	奥山 雅之*	小椋 康宏
	小野瀬 拓*	亀川 雅人	木下 耕二	佐々木 利廣*
	清水 健太	篠原 淳	柴田 仁夫	瀬戸 正則*
	武市 顕義*	田中 克昌*	田中 雅子	辻村 宏和*
	董 晶輝	當間 政義*	中村 公一	仁平 晶文*
	野林 晴彦	古市 承治	細萱 伸子	松村 洋平
	村橋 剛史	村山 元理	文 載皓*	山中 伸彦
	吉村 孝司*			
	(* は常任理事)			
会計監事	手塚 公登	水尾 順一		
本部幹事	宇田 理	小具 龍史	黒澤 佳子	桑原 重雄
	砂川 和範	羽田 明浩	平井 直樹	福原 康司
	藤井 辰朗	横山 恵子		
事務局長	武市 顕義			

## 【各種委員会】

委員会	委員長	副委員長	委 員		
総務委員会	奥山 雅之	大野 和巳	黒澤 佳子 藤井 辰朗	董 晶輝	
組織委員会	當間 政義	仁平 晶文	小具 龍史 福原 康司	砂川 和範	
会報委員会	粟屋 仁美	野林 晴彦	清水 健太 東 俊之	羽田 明浩	
国際委員会	文 載皓	細萱 伸子	木下 耕二 山中 伸彦	村山 元理	
機関誌委員会	小野瀬 拓		篠原 淳 松村 洋平	瀬戸 正則	中村 公一
山城賞委員会	佐々木 利廣		宇田 理 横山 恵子	亀川 雅人	柴田 仁夫

## 【特別委員会】

委員会	委員長	委 員			
DX化推進特別委員会	田中 克昌	桑原 重雄	平井 直樹		
部会活性化特別委員会	瀬戸 正則	柴田 仁夫	田中 雅子	村橋 剛史	村山 元理

## 【地域別部会】

北海道・東北部会長	稲葉 健太郎
関東部会長	石毛 昭範
中部部会長	村橋 剛史
関西部会長	田中 雅子
中国・九州部会長	古市 承治

## 【研究部会】

マネジメント実践研究部会長	小椋 康宏
マネジメント教育研究部会長	篠原 淳
経営実践コンサルティング部会長	柴田 仁夫
経営理念研究部会長	村山 元理
経営革新研究部会長	松村 洋平

## 【評議員】

経営関連学会協議会評議員	當間 政義 福原 康司
経済学会連合評議員	奥山 雅之 木下 耕二

## ◇◇第89回全国研究大会 大会開催記◇◇

大会実行委員長 奥山 雅之(明治大学)

日本マネジメント学会第89回全国研究大会は、統一論題『「実・学一体の実践経営学」の未来』のもと、2024(令和6)年6月7日(金)・8日(土)・9日(日)の日程で、明治大学(駿河台キャンパス)で開催した。開催期間中の参加者は約120名であった。明治大学での全国研究大会の開催は、2005年第51回大会以来の19年ぶりとなった。

大会1日目となる6月7日は、日本橋船着場(東京都中央区)に集合し、水上タクシー2台を借り切って、東京港の国際コンテナターミナル、東京国際クルーズ埠頭、晴海のまちづくりなどを海上から見学した。水上タクシーは日本橋を出発し、日本橋川、隅田川、浜離宮、品川埠頭、お台場、大井埠頭、田町周辺などを周回した。船上からは東京オリンピックのレガシーでもある晴海フラッグや、大型の観光客船の受け皿となっている東京国際クルーズターミナルなどを今までとは異なる視点で見ることができ、国際都市東京の変貌を実感した。約100分のクルーズの後、水上タクシーは日の出棧橋船着場に到着し、その後、東京港運協会の皆様との意見交換会が開催された。この取組みは、一般社団法人東京港運協会のご厚意によって実現したものである。東京港運協会の笹川専務理事をはじめ関係者に厚く御礼を申し上げる。



船上見学会参加者(日の出棧橋にて)

2日目の6月8日(土)の統一論題セッションでは、サブテーマ『「実・学一体の実践経営学」の軌跡と展望』のもと、本学会の核心的テーマのひとつである「実・学一体の実践経営学」を振り返り、「実践経営学」の課題は何か、「主客合一」「理論と実務の接合・橋渡し」の進むべき方向性について活発な議論が展開された。

午前中は、3名の報告があった。宇田理先生(青山学院大学)の「なぜ「歴史は繰り返す」と言われ続けるのか?」では、「戦略のタイミング」「コンテキスト」「過去の利用」など、たいへん重要なキーワードが示された。永野寛子先生(立正大学)は、「経営戦略論における研究プログラム」と題し、研究プロ



2日目の統一論題セッション

グラムの視点から、資源ベース論の理論的基礎の弱さが指摘された。村井淳氏(東急ホテルズ&リゾート株式会社)からは、実務家の観点から「人材育成を礎にした経営改革の実践」と題した報告があり、第一線の経営者ならではの示唆に富んだ内容が示された。今回は司会による小括を実施し、セッションごとにまとめ、振り返る時間を設けたが、午前中の司会の大野和巳先生(文京学院大学)は、その役割を十全に果たしてくださった。

午後は、2名の報告ののち、午前中の報告者3名を加えた5名の報告者によるパネルディスカッションが実施された。まず、福原康司先生(専修大学)から「経営学における理論と実践の融合：研究対象との協働を通じた経営教育の自分事化」と題して報告があった。批判的経営研究(CMS)の観点から経営教育の実学一体性と「自分事化」の不可分の関係を示唆した。佐々木利廣先生(元京都産業大学)は「越境協働実践からの学習—山田繊維の事例を通じて—」と題して、異業種コラボの連続化による境界連結の議論発展の可能性に言及した。理論と事例とが見事に噛み合う報告となった。パネルディスカッションでは、櫻澤仁氏(文京学院大学)の司会のもと、代表質問者として松村洋平先生(立正大学)が加わり、「実」「学」の報告に対する双方向の問いかけと議論が活発に交わされ、見ごたえのある議論であった。

会員総会ののち、特別講演として、ごと株式会社代表取締役で中小企業診断士でもある木下秀鷹氏が「長崎・五島列島で経営に奮闘した物語。～地方におけるブランド構築から販路開拓、人事制度設計の具体的事例を中心に～」をテーマに登壇した。経営者として、そして理論も学んで中小企業診断士としても活躍する同氏は、まさに実学一体を体現する存在である。

夕刻からは、会場を移し、懇親会が開催された。明治大学専門職大学院長で、本全国研究大会の実行委員長でもある吉村孝司先生の挨拶を皮切りに、報告の場とは一味違った意見交換の場として、参加者同士のネットワークも広がりを見せた。

3日目の6月9日(日)の統一論題セッションでは、「実・学一体の実践経営学」の典型的分野として、地理的・地勢的差異を研究的視角とする『実践経営学としての「地域と国際の経営学」』をサブテーマとした。本学会が掲げる「実・学一体の実践経営学」に照らし、地域や国際の多様性を踏まえた方向性を共有した。

瀬戸正則先生(広島経済大学)の司会のもと、3名の報告者から、いずれも示唆に富む内容が報告された。塗茂克也先生(千葉経済大学)は「日系中堅・中小企業による海外人材マネジメント～ベトナムとメキシコ現地調査からの考察～」と題し、定量的だけでなく定性的にも綿密に調査・分析された研究成果を発表された。東俊之先生(長野県立大学)は「伝統産業地域における創意と工夫—『地域の企業』としての伝統的工芸品—」として、長崎県波佐見町や福井県越前市の伝統産業を例に、「協働」と「競争」、「革新」の重要性が指摘された。ゲスト報告者である桜庭大輔氏(NPO法人ZESDA代表)からは「ZESDAが描くグローバルビジネスとプロデューサーシップ」と題し、



3日目の統一論題セッション

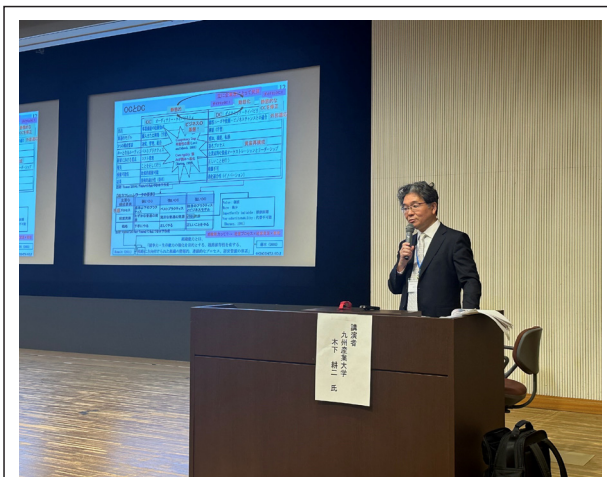
同団体が推進する「グローバルビジネス」「プロデューサーシップ」「パラレルキャリア」の理論的枠組と実際の取組みの報告があった。いずれも「実・学一体」といえる特筆すべき内容であった。司会の瀬戸正則先生(広島経済大学)のもとで質疑応答・討論および小括が実施され、多様な報告であったにもかかわらず、キーワードを使用しながら的確な整理がされた。

続く「山城賞受賞者報告」では、山城賞委員会委員長である辻村宏和先生(中部大学名誉教授)の司会、井上善海先生(法政大学)のコメンテーターのもと、見事に受賞された木下耕二先生(九州産業大学)から「ダイナミック・ケイパビリティのフレームワーク：資源ベース再構成の組織能力」と題した講演をいただいた。詳細で的確な事例分析もと、素晴らしい研究成果をあげた木下先生に、あらためてお祝い申し上げる。

同日午後の自由論題セッションは、3会場で、あわせて6つの報告があった。とくに、本学会が推進する「院生会員・新人会員向け支援プログラム」の対象者の報告もあり、同プログラムの良好な成果を示すものとなった。

大会実行委員として、至らない点多々あった。お許しいただければ幸いである。しかし、母校でこのような研究大会を開催できたことは、実行委員として至福の喜びである。

なお、大会の開催にあたっては、学会長の松村洋平先生(立正大学)、組織委員長の井上善海先生(法政大学)、総務委員長の當間政義先生(和光大学)をはじめ、多くの会員の方々および事務局から多大なご支援を賜った。あらためて感謝申し上げます。



山城賞受賞者・木下先生



## ◇◇第90回全国研究大会 開催校による統一論題解題◇◇

大会実行委員長 木下 耕二(九州産業大学)

日本マネジメント学会第90回全国研究大会は、統一論題『挑戦する地域企業～人的資本経営への取り組み～』のもと、2024(令和6)年10月4日(金)・5日(土)・6日(日)の日程で、九州産業大学にて開催いたします。

「人的資本経営」が、経営戦略と人材戦略の連動、ダイバーシティ&インクルージョン、従業員エンゲージメントの向上、企業文化への定着などを包含し、時代のキーワードとして脚光をあびています。背景には、機関投資家の投資判断におけるESG(環境・社会・企業統治)の考慮、人的資本を含めた無形資産比率の向上を通じた企業価値の増大という日本企業の課題、株主資本主義からステークホルダー資本主義への移行、人口減少という大きなトレンド下における新型コロナ禍後の急速な需要回復と人手不足、有価証券報告書発行企業における人的資本に係る開示の義務付け、長期にわたる生産性の低下などが挙げられます。

脚光をあびている「人的資本経営」ですが、これまでも我が国では、「企業は人なり」「人材ではなく人財」など人を経営資源の重要な要素として位置づけ、経営のかじ取りなどを行ってきた経営者は多かったものと思われます。これまでの「人的資本経営」とこれからの「人的資本経営」は、何が同じで、何が異なるのでしょうか。「人的資本経営」という社会現象を機会と捉え飛躍する企業がある一方、「仏作って魂入れず」状態の「人的資本経営」が巷に溢れ跋扈する恐れも否めません。

本大会には、「人的資本経営」という文言が脚光をあびる以前から、「人的資本」に着眼し、その充実、変革に取り組んできた企業経営者をお招きします。実学・一体で、「人的資本経営」のあり様、未来を議論いたしたく、会員の皆さま方におかれましては、万障お繰り合わせの上、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

## ◇◇第90回全国研究大会 開催校案内◇◇ 九州産業大学・大学紹介

九州産業大学は、故中村治四郎先生が「産学一如」を建学の理想として、1960年に創設されました。現在、およそ1万1,000人の学生が、文系の経済学部、商学部、国際文化学部、人間科学部、地域共創学部、理工学系の理工学部、生命科学部、建築都市工学部、そして芸術学部、造形短期大学部の10学部と大学院5研究科から構成される、文理芸融合のグローバル総合大学で学んでいます。

建学の理想「産学一如」を重視した本学では、学生自らが、課題を見出し、その課題の解決の方向性や具体策を探求するプロジェクト型の実践教育に力をいれています。地域や企業、行政と連携してプロジェクトを立ち上げ、学部や学科の枠を超えて取り組む本学ならではの学びでは、現場の声を謙虚に聞き、現場で起きている事実の意味を知り、それに基づいて現場で動く教育を展開しています。

九州産業大学の位置する福岡市は、アジア地域から広く世界に開かれた都市であり、博多商人はアジア地域との交易で活躍しました。アジアのゲートウェイとして金融機能を強化しており、国際的な金融都市を目指して環境を整備し規制を緩和する、政府の「金融・資産運用特区」の一つとして指定されました。また、人口の増加率が全国1位、美味しい食材がリーズナブルに味わえるなど全国的にも注目を浴びる街でもあります。

九州産業大学は福岡空港から約40分、博多駅から約15分圏内という好立地にあります。2020年の第82回全国研究大会（九州産業大学開催）は残念ながらオンライン開催となりましたが、第90回全国研究大会は対面形式で開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

**統一論題：**挑戦する地域企業～人的資本経営への取り組み～

**開催日時：**2024（令和6）年10月4日（金）～6日（日）

**場 所：**九州産業大学（福岡市東区松香台2-3-1）※受付：1号館7階

10/5（金）は企業見学（定員制・先着順）※詳細は大会プログラム等でご案内

**最寄り駅：**JR九産大前駅（受付まで徒歩10分）

バス停 九州産業大学前（受付まで5分）

バス停 九州産業大学南口（受付まで徒歩5分）

## ◇◇中部部会からのお知らせ◇◇

中部部会長 村橋 剛史（朝日大学）

中部部会では慣例として経営行動研究学会、経営哲学学会と3学会合同で年2回実施しており、随時報告者を募集しています。ご希望の方は中部部会会長・村橋 剛史（TEL：058-329-1359 E-mail：murahasi@alice.asahi-u.ac.jp）までお問い合わせください。次回は2024（令和6）年12月中旬の土曜日に開催の予定です。みなさまの応募をお待ちしております。

## ◇◇経営実践コンサルティング部会開催のお知らせ◇◇

経営実践コンサルティング部会長 柴田 仁夫（岐阜大学）

以下の要領で、経営実践コンサルティング部会を開催します。

**テーマ：**中小企業の情報開示はどこまで進むかーコーポレートガバナンス・コード改訂の影響

**概要：**コロナ禍で社会環境が激変する状況下において、企業の持続的成長と中長期的な企

業価値の向上を実現するため、2021(令和3)年6月にコーポレートガバナンス・コードが改訂された。これまでほとんど公表されなかった企業の人材面、環境面への取組みの開示が必須になったことから、これら非財務情報を統合報告書として開示する上場企業が増加している。一方、CSRやSDGsを実践している中小企業では、こうしたルール改正の影響を直接受けないにもかかわらず、積極的に情報開示をする企業が増えつつある。今回の研究部会では、中小企業にもかかわらず積極的に情報開示を推進する2社の事例を例に、情報開示がこれらの企業にどんな変化や影響をもたらしているのかを伺い、今後の情報開示の方向性等について議論する。

**開催日時：**2024(令和6)年11月16日(土) 13:00-15:20

**開催方法：**ZOOMによるオンライン

**主 催：**日本マネジメント学会 経営実践コンサルティング部会

**費 用：**会員は無料

**申込〆切：**2024(令和6)年11月8日(金)

**申込方法：**shibata.kimio.y5@f.gifu-u.ac.jp まで、メールにてお申し込みください。お申込み頂いた方には、11月13日(水)までにZOOMのURLをお送りさせていただきます。

**登壇者：**田中信康 氏(サンメッセ総合研究所 代表、東証スタンダード上場企業役員)  
石井直樹 氏(石井造園株式会社 代表取締役、B-Corp 認証、青少年の体験活動推進企業表彰『文部科学大臣賞』受賞)  
男澤 誠 氏(株式会社スリーハイ 代表取締役、内閣府特命担当大臣表彰『子供と家族・若者応援団表彰(子供・若者育成支援部門)』受賞、『日本でいちばん大切にしたい会社』大賞 審査委員会特別賞受賞)

### <当日のプログラム>

13:00-13:05 (05分) 開会挨拶(部会長)

13:05-13:15 (10分) 解題(「中小企業の情報開示の重要性」) 部会長

13:15-13:45 (30分) 第一報告「コーポレートガバナンス・コード改訂は中小企業に影響を与えるか(案)」 田中信康 氏

13:45-14:15 (30分) 第二報告「石井造園(株)が実施する情報開示の事例」  
石井直樹 氏

14:15-14:45 (30分) 第三報告「(株)スリーハイが実施する情報開示の事例」  
男澤 誠氏

14:45-15:15 (30分) 質疑応答

15:15-15:20 (05分) 閉会挨拶(部会長)

以上

## ◇◇「韓国経営教育学会」参加記◇◇

當間 政義 (和光大学)

2024(令和6)年5月11日(土)、韓国経営教育学会が、韓国の大邱にある慶北大学にて開催された。これまで長年にわたって交流のある韓国経営教育学会の会員の先生方と久しぶりの再会に感激し名刺交換等を行い、とても嬉しいひとときを過ごした。

総会時には、韓国経営教育学会会長の權純槍先生(慶北大学)が挨拶を行った。次いで、日本マネジメント学会会長の松村洋平先生(立正大学)が挨拶を行うこととなった。発音の良い韓国の言葉で挨拶を行い、参加者からは盛大な拍手が起こった。その後、日本語での挨拶に切り替え、文載皓先生(常葉大学)による同時通訳が行われた。



日本マネジメント学会の発表者は、粟屋仁美先生(文京学院大学)で“Japan’s Automotive



Recycling System and Recycling Business”というテーマであった。流暢な英語のスピーチは参加者の集中力を上げるとともに、説得力のある内容であった。コメンテーターは、日本の慶応義塾大学大学院で博士号を取得した李甲斗先生(慶南大学)が務めた。質疑の時間には数多くの先生方が一斉に手をあげ、司会者を困惑させる状況を回避するようなコメントが出され、コメンテーターの李先生の機転で数々の質問が日本

語に変換され、スムーズな質疑が行われたことを記憶している。粟屋先生の発表が終了すると会場の隅々まで響き渡る程の拍手であった。

2024年10月4日から6日に、九州産業大学で全国研究大会が行われる予定であるが、韓国経営教育学会からも参加・報告が行われる予定であるということであった。

最後になるが、日本では研究者の国際化が問われているがどうであろうか。こうした活動をもっともっと高く評価をして良いのではなかろうか……と思いつつ帰路に就く。非常に有意義な大会参加であった。



## ◇◇中部部会報告◇◇

中部部会長 村橋 剛史(朝日大学)

日本マネジメント学会中部部会は、経営行動研究学会、経営哲学学会と3学会合同で、2024(令和6)年5月11日(土)に第66回研究例会を行った。第1報告は名古屋国際工科専門職大学の今井範行氏により、「管理会計の潜在機能に関する探索的考察 ―トヨタの原価企画を手がかりに―」と題して、村橋剛史氏(朝日大学)の司会・コメンテーターで報告が行われた。トヨタ自動車グローバル化していく中で行われてきた原価企画の機能を考察し、製品開発に連動した原価低減という顕在機能だけでなく、職能部門間における有機的な連携と協働の促進と競争力の錬磨という潜在機能も有しているとの報告が行われ、活発な質問、討議が行われた。

第2報告は大阪成蹊大学の西釜義勝氏により、「イノベーション創出に向けた社会受容性に関する考察」と題して、東俊之氏(長野県立大学)の司会・コメンテーターで報告が行われた。科学と社会の関係を問うサイエンス・コミュニケーションについてさまざまな手法が説明されたのち、実際の事例をもとにサイエンスカフェという手法の有効性について考察が行われた。サイエンスカフェでは参加者の多様性を反映して課題がフィードバックされ、参加者との共働を生み出す点について活発な質問、討議が行われた。

今回も会場とオンラインとハイブリッド開催で行い、他部会の会員も多数参加していただいた。当日ご参加くださった皆様に感謝申し上げたい。また、今回は4年ぶりに懇親会を開催することができ、お互いの交流を深めることができた。

## ◇◇令和6年度 第1回関西部会報告◇◇

関西部会長 田中 雅子(帝塚山大学)

2024(令和6)年5月25日(土)午後1時30分から、日本マネジメント学会の第1回関西部会が関西大学梅田キャンパスで開催された。概要は以下のとおりである。

## ◆研究報告

報告者1：北野康氏(福井県立大学)

テ ー マ：非正規従業員のマネジメントー小売業・外食産業を対象にした実証研究

報告者2：鷺谷佳宣氏(慶應義塾大学大学院)

テ ー マ：拡張を含む経営理念浸透要因の検討

## ◆研究活動情報交換会

司会：野林晴彦氏(金沢星稜大学)

北野氏の報告は、非正規従業員のマネジメントをテーマに、CVS 店舗に勤務するパート・アルバイト従業員が自律的に行動するプロセスに関するものであり、鷺谷氏の報告は、企業組織の経営理念浸透をテーマに、理念の浸透を行いながらも新たな方向性を指し示す拡張を含む理念浸透に影響を及ぼすプロセスについてのものであった。両氏ともにインタビュー調査をもとに進められた実証研究であり、現場の実態が垣間見える発見事実に対して、質問や改善点等、活発で熱心な質疑応答が繰り返された。

また、初の試みとして、研究者が自身の研究テーマについて紹介しあい、他の参加者からアドバイスや助言を受ける「研究活動情報交換会」を行ったが、想像以上に好評で、部会終了後のアンケートには「このような機会は数少なく、新たな発見やコラボの可能性が感じられた」等の感想が寄せられた。

最後に会場校である関西大学の横山恵子氏からご挨拶をいただき、部会は無事終了した。これもひとえにご協力いただいた皆様のお陰と主催者一同、深く感謝をしている。ありがとうございました。



## ◇◇令和6年度 第1回経営理念研究部会報告◇◇

経営理念研究部会長 村山 元理 (駒澤大学)

2024(令和6)2024年7月13日(土)に駒澤大学駒沢キャンパス種月館にて実施し、新会長の井上先生をはじめ13名の参加者が集まった。第1回は研究者セッションで2名が研究報告を行った。小野瀬拓氏は、「企業家研究における万能薬仮説とSDGsの理念」を報告した。台南市での国際会議の報告とベトナムホーチミンで開催予定の報告をつなぐ経過報告であった。小野瀬(2024)によって、すべての国で最近のSDGs, SDG, SustainabilityのGoogle Trendsが紹介される中で、「Sustainabilityが上位にくることは、上位ジャーナルの言及を見れば明らかである。どれだけ現代においてSDGsが重要で注目されていたとしても、ヒット件数は、SustainabilityのほうがSDGと比較して圧倒的に多い」ことが指摘された。そして「企業家研究においてSDG(SDGs)は広く使われているがトップジャーナルでの言及は少ない」ことを明かす。そもそも企業家が社会課題と経済成長を達成するというのは、万能薬神話(panacea myth of entrepreneurship)であり、「SDGs自体も万能薬神話であるとみなすこともできる。誰にも批判しづらい持続可能性と17目標と169ターゲットとしておけば、それを追求せざるを得なくなる。本当にそれが持続可能性に貢献しているか、どれだけ貢献しているかはよくわからない部分がある」と問題提議した。

ビジネス誌の記者として働きながら、博士論文『創業者精神と現代経営におけるLegitimacy: ANA創業者・美土路昌一の事例研究を通して』を完成させた大木由美子氏から「ANA創業者美土路昌一の経営理念」が報告された。ANAはJALを抜き日本で最高の収益を稼ぐ航空会社となった。JALの13分の1以下の資本金から出発した民間航空会社がいかに誕生し、経営理念不在の低迷期を経て、上昇気流にのるかのごとく現在の地位に至れたのか。岡山県津山市での伝記的資料の探索、社内報の分析、そして経営学的にもLegitimacyサイクルモデルという独自の理論からANAの創業者精神である「現在窮乏 将来有望」が同社のフィロソフィーとして経営陣によって維持継承されていたことがメインテーマとなった。経営理念と企業文化の概念の先行研究がレビューされ、シャインとサッチマンの理論の近似性が分析されながら、Legitimacyサイクルモデルにおける「正統性」と「正当性」について、(1)「正当性の獲得」、(2)「正統性の維持」、(3)「正統性の危機」、(4)「正統性の修復」と「正当性の再獲得」が著者の独自の概念構築として、今後の経営学研究では必ず引用される新理論として注目された。大部の博士論文の一部しか発表できなかったのが残念だった。美土路昌一という新聞記者が公の精神から航空機事業に参入した背景など奥深い話題があり、出版が期待される高度な研究として今後も研究の進展を期待したい。

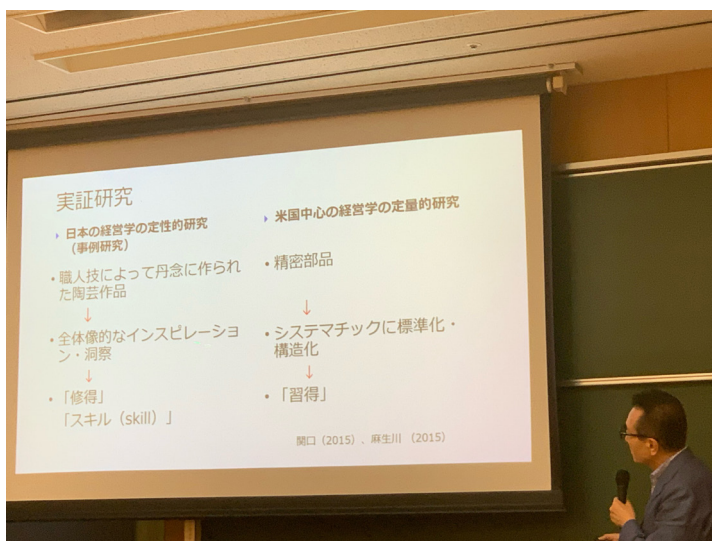


## ◇◇令和6年度第1回 関東部会報告◇◇

関東部会長 大野 和巳 (文京学院大学)

2024(令和6)年7月21日(日)午後1時より、立正大学品川キャンパスにて、第1回関東部会が開催された。30名の参加者が集い、2つの研究報告と特別講演において活発な議論が交わされ、懇親会において参加者同士の交流がすすみ、井上善海会長の新体制のスタートにふさわしい充実した部会となった。

第一報告は、黒澤佳子氏(拓殖大学)「中小ファミリービジネスの事業承継：社会情緒的資産に着目して」、司会は小野瀬弘氏(駒澤大学)であった。報告者は、中小企業における女性への事業承継に関して研究を重ねられており、本報告では、後継者決定要因や承継準備プロセスに影響に関して、単一事例により探索的調査を行い、創業家の理念継承が後継者選定の決定要因の一つになる、準備期間が長いほど理念継承の効果が高く永続性につながる、という2つの仮説を導出した。コメンテーターの佐藤一義氏(立正大学)からは、立正大学で長年、行われてき300社のインタビュー調査で得られた知見にもとづき貴重なコメントがなされた。

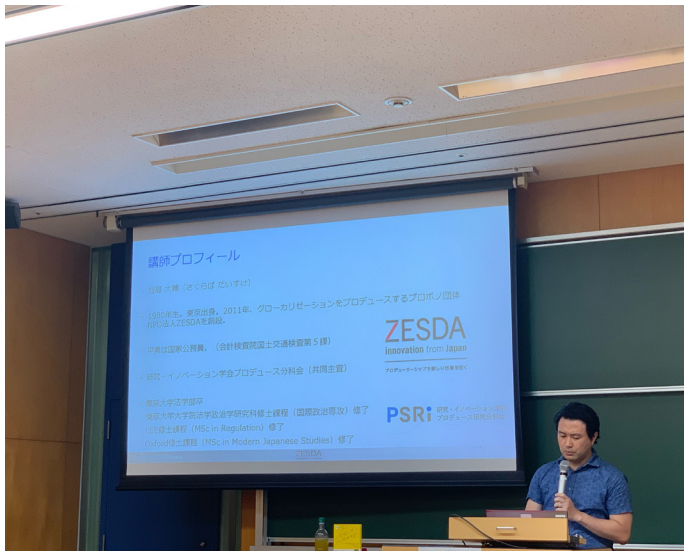


第二報告は、井上善海氏(法政大学)「非効率を付加価値に変えるビジネスモデルの探索的研究」、司会は仁平 晶文氏(千葉経済大学)であった。本報告は、B to Bにおいて非効率を価値に変換するビジネスモデルにより独自性を発揮し成長している2社の事例研分析から、1) 戦略転換点の予兆を捉え活路を見出している、2) 利害関係者にとっての非効率を自社のビジネスモデルへと変換している、3) ビジネスモデルを支える人材育成の仕組みを構築している、という事実を明らかにした。コメンテーターの櫻澤 仁氏(文京学院大学)からは、提示された発見事実はそれぞれ首肯できるが、相互に関連づければ現実妥当性を高められるという指摘をはじめ幅広い視点から多岐にわたるコメントがなされた。

特別講演は、桜庭大輔氏(NPO 法人 ZESDA 代表)「プロデューサーシップのすすめ」、司会は奥山 雅之氏(明治大学)であった。桜庭氏には、第89回全国研究大会統一論題セッション4において「ZESDA が描くグローバルビジネスとプロデューサーシップ」と題し報告をしていただいているが、今回は「プロデューサーシップ®」に焦点をあてた講演をしていただいた。講演は、最初に個人の生産性を上げるにはどうすればよいかという問題意識のもと、労働者が「プロデューサー」になればいいという結論を示した上で、本論に入った。まず「カネ」



とならび人脈「コネ」と情報・アイデア「チエ」を資本と捉える三大資本主義観を示し、資本家がイノベーター(=「e」:entrepreneurship)にチエを提供する「Inspire」とコネを提供する「Introduce」が成功するまで繰り返されるというプロデュース理論(「 $P=e \times Ins^n \times Int^m$ 」)を解説し、次に「プロデューサーシップ®」を「①組織や業界を横断したマルチ・リテラシーを持ち、②新しい事業を創造するべく、③イノベーターと共に歩むリーダーシップ」と定義した。そして資本家がコネ・カネ・チエを運用し価値を生み出すことを「プロデュース」ととらえ、それを3類型(9種類)に分類し、代表事例を紹介した。講演は、日本が経済システムを革新し今後も国際競争力を維持していくためには、「プロデューサーシップ®」を持ち、組織や業界を横断して日本社会にイノベーションを導く「プロデューサー」の人材育成が一つの鍵となるという示唆に富む内容で、質疑応答も予定時間を超えるほど活発に行われた。



最後に、開催校を代表して前会長の松村洋平先生、新会長の井上善海先生より閉会のご挨拶をいただき、続いて場所を移動し懇親会が開かれ、楽しく和やかな雰囲気の中かで解散となった。

なお、今回までは慣例により前年度執行部(副部会長:奥山雅之、幹事:平屋伸洋)が運営いたしました。参加者の皆様、開催校の皆様、これまで、部会運営にご協力いただきまして、心より御礼申し上げます。

## ◆◆会員の最新刊著書を紹介◆◆

大嶋 淳俊 著

『次世代経営リーダー育成～経営人材創出モデルの探究～』

学文社 本体 4,100円+税

次世代経営リーダー育成について人事部・選抜人材・経営者という多角的視点で15年間の研究成果を結集し、経営人材を持続的に創出する「次世代経営リーダー育成(NLP)モデル」を理論的・実証的に解説。実務に有効な処方箋も提案している。

## 学会事務局より

### 令和6年度会費のお支払いについて

令和6年度会費の支払期限が過ぎておりますので、未納の方は次のいずれかの方法で至急お支払いをお願い申し上げます。学会運営の財源は会員の皆様方の会費のみで賄われておりますので、学会活動を円滑に運営するために皆様方のご協力をお願いいたします。

- ①ゆうちょ銀行の振替口座による支払い（既にご送付の請求書に添付の払込取扱票を利用すれば、振込手数料のご負担はありません。）

口座番号：00150-7-535064

- ②みずほ銀行への振込みによる支払い

飯田橋支店 普通預金口座 1388418

- ③他の金融機関からゆうちょ銀行への振込みによる支払い

〇一九（ゼロイチキョウ）店 当座 0535064

### 会員情報の変更連絡のお願いについて

学会活動の円滑な運営を行うために、事務局は皆様の会員情報の維持・管理を行っており、大学・会社等の所属先、自宅住所、電話番号、メールアドレス等の変更がある場合は、会員情報の変更・更新を行っております。

学会のDX化推進の一環として、会報はこの2月度会報から従来の紙媒体から電子媒体に移行しメルマガによる一斉配信となっており、また今年度は会員名簿の更新版の発行を予定しております。

このような会報の電子化や会員名簿の更新を含めて、メールアドレスその他の会員情報の整備・更新は必要不可欠ですので、会員情報の変更があれば速やかに事務局にご連絡をお願い申し上げます。

### メールマガジン・学会ウェブサイトをご利用ください

大会、部会の開催や募集、その他ニュースなどタイムリーにお届けするにはメールマガジンが最適です。ぜひメールアドレスの登録をお願いします。

また学会ウェブサイト (<http://nippon-management.jp/>) では、学会の最新の情報をアップしております。ブックマークへのご登録をお願いします。

### 編集後記

本号は役員交代に伴い、新旧委員会共同編集で作成しました。旧委員会への皆様のご協力に心より感謝しております。委員会は代わりますが、会報を一層ご活用いただけますよう、変わらぬご支援をお願いいたします。（会報委員会 前委員長 細萱 伸子）

細萱前委員長はじめ前会報委員の皆様、ありがとうございました。次号より新体制で会報を編集してまいります。初めての業務で何もわからない状態ですが、新委員メンバーの先生方と力を合わせ充実した会報となるよう尽力します。どうぞよろしくお願い申し上げます。（会報委員会 委員長 粟屋 仁美）

発行 **日本マネジメント学会**  
(旧称：日本経営教育学会)

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-5  
九段会館テラス2F  
株式会社山城経営研究所内  
TEL 050-1790-3506

E-mail: [jimukyoku@nippon-academy-of-management.com](mailto:jimukyoku@nippon-academy-of-management.com)  
URL: <http://www.nippon-management.jp/>

印刷 ㈱ドットケイズ 〒03-5206-1626  
E-mail: [win@good-ks.co.jp](mailto:win@good-ks.co.jp)